

図画工作学習指導案

単元名「立ち上がれ！ねん土」

令和元年6月17日（月）第2校時 4年松組教室
4年松組 指導者

I 授業改善の視点

粘土の立ち上がらせ方を話し合う活動を取り入れることで、高さのある作品のより有効な立ち上がらせ方に気付き、つくりたいもののイメージをもつことができるだろう。

II 本時の学習 1/4

<ねらい>

・粘土の立ち上がらせ方の工夫を考え、作品のイメージをもつことができる。

学習活動	指導上の留意点
<p>1 問題意識を持つ (5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 問題 高さが20 cm以上の作品を作ろう。 </div> <p>T：（実際に平面を立てたような作品を作り）スカイツリーのような建物を粘土で作ろうとおもうのだけど、倒れちゃう。どうしたらいいかな。 S：ペラペラじゃなくて、立体にすればいい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> めあて ねん土を立ち上がらすためには、どのような方法があるだろうか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題意識を持つために、ただ自由に製作するのではなく、高さのある作品を作るためにはどのように製作をすればいいかを考えさせる。 ・問題をとらえやすいように、実際にうまくいかない例を見せて、問題意識を持ち、解決策を考えられるようにする。 ・限られた量の粘土で、いかに高さのある作品を作れるようにするかも考えさせる。 ・高さのある作品（立ち上がる粘土）を作るためには、粘土を工夫して使わねばならないという、解決への見通しを持たせる。
<p>2 個別に課題を追求する。(5分)</p> <p>T：粘土を立ち上がらす（高さのある作品を作る）ためには、どんな方法があるかな。まずはいろいろ試してみよう。 S：（粘土を薄くして、立体的に組み立てる。） S：（粘土を広くしてから、丸めロール状にする。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高さのある作品を作るためには、かたまりの粘土を無造作に形作るだけではできないことに気付かせる。 ・考えが浮かばない児童には、粘土を薄く板状にしたもの、棒状にしたもの、ひも状にしたものを見せ、考えの糸口にさせる。
<p>3 追究したことを全体で比較・検討する。(5分)</p> <p>T：どうやって立ち上がらせようか、隣の人に説明しましょう。 T：みんなの前で発表してくれる人はいますか。 S：薄くして、（立体的に）組み立てました。 S：広くして、（ロール状に）丸めました。 S：ひものようにして、重ねました。</p> <p>T：①スカイツリーなら、どんな方法がいいかな？ T：②粘土の使い方・工夫の仕方で、どんな作品が作れそうかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が自分の考えを話せるように、ペアで発表させ合う。 ・「粘土の形」（粘土を薄く板状にしたもの、棒状にしたもの、ひも状にしたものなど）と、その「重ね方・組み合わせ方」にポイントがあることに気付かせる。 ・①スカイツリーならどんな方法が適しているのかを例に、目指す作品の形によって、どんな立ち上がらせ方が有効かを考えさせる。 ・②立ち上がらせ方によって、どんな形状の作品が作れそうかを考えさせる。
<p>4 個人でさらに検討しながら、製作する。(20分)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 【評価方法】考（発言・作品） 粘土の立ち上がらせ方をいろいろ考え、どんな作品が作れそうかイメージをもつことができる。 </div>
<p>5 学習のまとめをする。(5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> まとめ 立ち上がらせるには、「板状にする」「ロール状にする」「ひもにして重ねる」など。（ねん土の形や重ね方・組み合わせ方を工夫する。） </div> <p>T：どんな方法で、<u>どんな作品</u>を作ろうとしているか、発表してくれる人はいますか。 S：板のようにした粘土を組み立てて、高い塔を作っています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の言葉を使い、まとめられるようにする。 ・「どんな作品（イメージ）」を作ろうとしているか、そのために、どんな粘土の立ち上がらせ方の工夫をしたいかを確認する。 ・いろいろな作品のイメージを共有できるように、作品として良い例示になる児童には、意図的に発表させるようにする。その後振り返りをし、イメージを深く持たせられるようにする。
<p>6 片付けをする。(5分)</p>	

III 板書計画

6月17日（月）

〈ねん土を立ち上がらせる方法〉

「立ち上がれ！ねん土」

Q、高さが20 cm以上の作品を作ろう。

板にして
丸めて立てる

棒にして
重ねる

ひもにして
重ねる

かたまりにして
くりぬく

めあて ねん土を立ち上がらすためには、どのような方法があるだろうか。

まとめ 立ち上がるには、ねん土の形や重ね方・組み合わせ方を工夫する。

